

審議会等の会議結果報告書

【担当課】文化財課（八ヶ岳総合博物館）

会議の名称	茅野市博物館協議会		
開催日時	令和3年3月24日（水） 午後1時30分～3時		
開催場所	八ヶ岳総合博物館 閲覧室		
出席者	沖野外輝夫委員長、小口隆秀副委員長、片桐広文委員、市川純章委員、 武居三男委員、山田勝俊委員、伊藤彰敏委員、大勝弘子委員、永尾房江委員 山田利幸教育長 北沢政英生涯学習部長、五味健志文化財課長、守矢昌文 尖石縄文考古館長、両角徹生八ヶ岳総合博物館長、中澤正明神長官守矢史料館長、山科哲考古館係長、柳川英司博物館係長、両角勝元守矢史料館担当		
欠席者	小平一次委員、野口幸子委員		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
山田教育長	<p>○ 議事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 教育長あいさつ 3 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 会議の公開について (2) 各館 令和2年度事業報告について (3) その他 4 閉会 <p>○ 会議録</p> 北沢部長・五味課長自己紹介 <ol style="list-style-type: none"> 1 開会（五味文化財課長） 2 教育長あいさつ <p style="margin-left: 20px;">お忙しい時間にお集まりいただき、ありがとうございます。</p> <p style="margin-left: 20px;">今日はここにありますように、尖石縄文考古館・八ヶ岳総合博物館・神長官守矢史料館の3つの博物館の事業報告と、公共施設再編計画について若干触れたいと思います。先ほど、八ヶ岳総合博物館のノートをひっくり返していたら、去年のがないのです。今、課長に聞いたところ去年のこの会はコロナのためにできなかったと言われたところでした。ちょうど今、3月のこの時期、学校は突然の休校で、それから市民生活は4月になって非常事態宣言、3館は新たな年の出発を前にしているいろいろ準備していた。やるかやらないという選択ではなく、工夫してやっていく中で、どうやって3つの博物館の機能を維持していくかということを考えていたわけです。今年度は感染症対策に終始してきたわけですが、来年度はその辺のことを改善していけたらいいと思います。そのなかで、コロナ禍だから見えてきたところがあるわけで、例えば、考古館は県外からの方が多くいらっ</p> 		

	<p>しゃっている。考古館の受付の方がコロナ対策にとっても気を遣っていらっしやって、本当に大変だなと思いました。総合博物館も数々の講座をやっていただきました。特に子ども対象の講座などを重点的にやっていたでいて、昨年度の夏休みの講座の数よりも多かったです。史料館も、県外のお客さんがかなり多く見えられて、中澤館長をはじめ、職員の方たちも丁寧な対応をしていただきました。来年度へ向けて、今年度の報告をしますので、どうぞ、ご審議をお願いします。</p> <p>3 協議事項</p> <p>(1) 審議会等の会議の公開について (説明：柳川博物館係長)</p> <p>(2) 各館 令和2年度事業報告について</p> <p>①尖石縄文考古館 (説明：守矢館長)</p> <p>②八ヶ岳総合博物館 (説明：両角館長)</p> <p>③神長官守矢史料館 (説明：中澤館長)</p>
委員長	<p>3館ともにみんな特徴のある館なので、また、中身も独特なところがあるため、それぞれに工夫しているが、いずれにしても、コロナ禍の中で事業だったので大変だったと思う。</p> <p>これからを考えると、感染症の問題は、まだまだ起こってくると思う。今年度大変だった、だけではなく、これをうまく利用して今後どういうやり方があるか、ということが一つの体験として積まれていくのが、いいと思う。突然思わぬ事態に直面するといろんなことが支障をきたすので、あらかじめ、あるんだというのを念頭に置きながら、公開の形も変えるとか、ウェブ会議とかいろいろあるが、そういうものも含めて館の運営について考える良い機会だと考えるのがいいと思う。</p> <p>(3) その他</p> <p>・「公共施設再編計画」について (説明：柳川博物館係長)</p>
委員	<p>毎年のことだが、とても素晴らしい活動の数々で、ありがたいと思う。公共施設再編計画について、尖石縄文考古館・守矢史料館は、当面継続となっているが、八ヶ岳総合博物館の継続性が検討になっている。八ヶ岳総合博物館の評価内容を見ると、機能と建物は分離して分析すると言っておきながら、その機能のことを正しく見ていないのではないかと思った。幸いなことに検討であるので、ここからしっかりと必要性を言う必要があると思った。私は博物館との長いつき合いの中で、一つ教</p>

	<p>えていただいたのは、展示してあるものを見せることだけが博物館の機能ではないということ。特に地域の科学教育振興に資するという大きな役割を持っていて、たとえば市民研究員の養成なども八ヶ岳総合博物館の機能であると私は認識している。しかし、この評価では一切考慮していない。「公共施設再編計画」の評価は観光的に収益があるかどうか、売れるコンテンツがあるかどうかだけ見ている気がして、誰が審査したのかっていうところに、非常に不満を感じた。</p> <p>教育長がこのあり方に意見できるポジションにいるのかいないのか、できたらいて欲しいのだけれど、館長とか文化財の方とか、今回の場合でも、こういった事業を展開するときに、この施設としての場所があることも重要だとしっかりと行っていただきたいと思う。例えばこれらに事業は尖石縄文考古館でもできるとか、守矢史料館で、市民講座開けるというように解釈されたら、それは違うと思う。或いは文化センターでできますよねとか言われたら、そうではないと思う。やはり、市民研究員が集まる拠点としての場所とか、展示会を独自にやる場所とか、そういった機能が、あるってことを言っていないと、展示しているコンテンツ、お金にならないとだけで見られてる感じがするので、ちょっと違うのではないかと、ぜひ主張して欲しいと思った。</p> <p>いつものことながら充実した活動内容で、去年はコロナでできない面もあったが、事業を積極的にやっていただいて、非常にありがたいと思っている。ぜひ教育長に必要性を主張することをお願いしたい。</p>
山田教育長	<p>市全体の総合計画に基づいた計画である。直接私の方から意見を述べられるようには現在になっていない。「公共施設再編計画」を具体的に進める中で、個別計画の中で私自身は意見を述べていく形になると思う。</p> <p>今、委員が言われたように、機能の面について、八ヶ岳総合博物館の一番持っている、他の博物館にない特徴を委員に言っていただいたが、そういう機能、それを個別計画の中でどういうふうに検討して具体化させていくかというのは私たちの仕事だろうと思う。</p>
北沢部長	<p>市の考え方としては、大きなお財布の中で、どう考えても今のまますべてを一応維持していくのは本当に困難だということは多分皆さんおわかりだろうと思う。総論は賛成だが、各論になってくるとどうしてもこういった話が出てくる。委員が言うことは本当によくわかる。今までパブリックコメントなどで意見を集約しているが、これが各論になってくると、それぞれが、こういった機能を持つてることを主張しだして、結局は現在5パーセントで市のもっている施設を縮小していこうという話で進められている。今度は5パーセントだと全然足りない、本来だったら30パーセントから50パーセントぐらいは縮減してかないと、将来の子どもたちのためというか、生活がままならなくなる。将来的に基金を取り崩していく話にもなる。委員のおっしゃることはよくわかるが、その機能をどういうふうに、この場所ではならないのかという物理的なものも含めて、やはり意見は述べていく必要があると思っている。ただ市の実情とすれば、統合できるものや、削減できるものについて、市民全員に理解をしていただかないと、事が進まないということが根底にあるので、ご理解いただきたいと思う。</p>

委員	<p>私が意見を言ったのは、そういう思い込みに負けてはいけないということだ。なぜかというと、総論からいったら、削減になるように感じる。だからこそ、個別の事情をよく知る者が、この博物館の重要性をしっかりと主張しなければ、総論の中で削減になると強く危惧する。だからこそ、主張する必要があると言っている。楽しい茅野市を作っていく提案ではなくて、我慢しろ、削減だと言われたら、嫌になっていく。一連の流れを見ていると、お金がないから削減するというアイデアしか出ていない。どんな明るい豊かな茅野市を作っていくのか未来が語られていないところがとても残念だ。だからこそ、大切さを知っている者がしっかりと重要性を訴えなければ、総論に飲み込まれてしまう懸念を訴えたかった。</p>
北沢部長 委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>この博物館の機能について思うのは、現在ある資料を残していくことがとても重要だということだ。きちんと残していくにはこの建物はすごく重要だと思う。そういうことで総合博物館という名前がついていると思う。私が思っていたのは八ヶ岳だから自然科学だけでいいじゃないかと思っていたが、ここへ関わり、色々な文化とか、風土とか、そういうものも、ここに入っており、資料をきちんと残している。機織り機があって、それを大事に使って、それを残していることを知った。現物があるということが大事なことで、このような建物がなかったらその部分が、消えてしまうので、博物館の建物そのものを、ちゃんと残して欲しいということで、なくなることをとても危惧している。</p>
委員長	<p>博物館は地域の財産だと思ってもらわないと。現在の人のものでもあり同時に、過去からの人のものを保存していく責任も、現在にはある、それをもう少しわかりやすく主張して、理解してもらうことも必要かもしれない。</p> <p>難しい課題で、新年度からはこういう話も、いろいろ話題にして、対応していくことになると思う。せっかくここまで維持してきて、ここでなくなるっていうことは、本当に残念だし、ありえないと思う。茅野市の貴重な財産であるということで、将来に残していくのが役目だということってやっていけないといけない。</p>
北沢部長	<p>今の施設再編計画というのは5年間で中間的な検証をし、10年後に結論を出していくことになっている。問題提起の部分もあるので、今、委員長が言ったその部分をアピールしていくことについては、市民や博物館を利用される方の大きな声が、中間の検証のときに大きな動きとなってくれば、何とかなるかもしれない。</p> <p>しかし、市とすれば大変申しわけないのですが、私は生涯学習部の立場からこちらの方を守りたいという立場と、市の財政を何とか維持したいという両方の立場があります。非常に難しいのですが、機能面、委員のいう、こういうことが大事だっていう、大きな皆さんの声として、絶対必要だという形になってくれば、中間地点でこの計画をどのように修正していくのかという流れとなっていくかもしれないので、ご理解いただきたい。一応たたき台を作らないと、どうしていくかというような話にはならない。</p>

<p>山田教育長</p>	<p>計画を作ったアドバイザーは、各施設や管理しているところとヒアリングを行い、担当課で結構これは大事だという話をしているが、最終的にはその総量規制の中で判断する話になったということである。その点をご理解いただきながら、軌道修正をしながら、今後、重要性、機能面など、多くの声を反映させていくことが大事だと思う。</p> <p>私も生涯学習部として、文化施設だけではなく、スポーツ施設も担当している。特に教育長は、学校施設まで含めると市の公共施設の大半を教育委員会で、管理しているという立場にあるので、非常に難しい。</p> <p>これから小学校・中学校の問題も出てくる。非常に大きな問題をはらんでいるので、委員の言うことは十分わかるが、非常に難しい。今後どうしていったらよいかという具体的な声を織り交ぜていただければと思う。</p> <p>先ほど委員が言った資料の保存というのは重々わかっています。収蔵庫をどうするかを、前市長、今度の市長とも収蔵庫の中を見たことある。具体的にどうするか、収蔵庫に眠らせとくだけじゃなくて、何とか利用できないかという話まで持っていったが、それから先が進めない。それから、八ヶ岳総合博物館という名前だが、八ヶ岳と付くので、自然博物館だと思うかもしれない。そうではない。総合博物館で、自然科学と同時に社会科学的なものまですべて含めて、諏訪で唯一の総合博物館という位置は、本当に大事にしてかなければいけない。これまでに博物館には数々の危機があった。教育委員会みんなで、守り通してきたという歴史をご理解いただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>二階の展示は、民俗資料館的なことで、貴重な資料が展示されている。博物館の活動は館長が言ったように、理科に関する、サイエンスに関する活動がもっぱらである。教育長も言ったように、諏訪の中でこういった理科科学的な博物館、或いは総合博物館というのではない。特に理科を中心にあるところはないと思う。しかもものづくりが盛んなこの地にあって、貴重などころである、という思いは委員の皆が思っていることと思う。だから私たちの立場としたら、そういう意見も述べるということになるしかない。行政の方の折り合いをぜひお願いしたいというふうに思う。</p>
<p>北沢部長</p>	<p>・退任者の紹介</p> <p>4 閉会</p> <p>先ほどは、本当に長時間、慎重審議、また貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。委員の皆さんの博物館に関わる本当に熱意というのが伝わって参りました。</p> <p>先ほど申し上げましたけども、ぜひまた貴重なご意見をいただいて、それが委員の皆様のお話と上手くオーバーラップできれば、せっかくの皆さんの熱意というのが、何か形になるのかなと思います。市の立場とすれば、いろんな貴重な意見を併用するなり、全部受入れるということがなかなか難しいが、熱意があり余るほどありますので市の中核に伝えることが可能かと思えます。ぜひその点でもまたご協力をお願いしたいと思います。本日は本当に貴重なご意見いただきながら、また来年度から新メンバーで、また頑張っていきたいと思えますので、ぜひご協力をお願いした</p>

<p>委員</p>	<p>いと思います。本当にお疲れ様でございます。</p> <p>・以下は、欠席された委員の質問やコメント 資料を読ませていただきました。コロナ禍にもかかわらずみなさん一生懸命に活動されていて、素晴らしいと思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>今年度の縄文検定は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。適切な判断であったと思いますが、今後縄文検定の実施に当たっては受験資格の範囲拡大を切に要望します。現在の縄文検定受験資格は茅野市在住が基本であり、現状の受験者の主体は縄文学習をしている小学生のように思います。市民の方の受験者数は芳しくないようです。</p> <p>ボランティア活動や縄文プロジェクトの活性化などへ注ぐ熱量を増やすためにも茅野市以外でも各種講座・ゼミナール・サークル活動への参加者、学習会員なども含め茅野市在住に拘わらずに「縄文」への関心の高い方にはぜひ受験の門戸を開いていただきたいと思います。各種事業へのより一層の参加・協力が期待でき、事業の継続性・充実にも貢献できるものと思います。</p>
<p>山科考古館係長</p>	<p>縄文検定の受検者は、ご指摘のとおり一般受検が減少しています。推測になりますが、受検資格が茅野市在住・在勤の方であるなかで、関心のある方はほぼ受検したことになると思います。</p> <p>市民総学芸員化を謳った縄文プロジェクトに取り組んでいるうえで、縄文検定は茅野市の縄文文化について学ぶ最初の入り口のひとつになっていると思いますので、引き続き実施をしていきたいと考えておりますが、ご指摘のありました受検資格の拡大については、以下のように考えています。</p> <p>現在の茅野市の取組に、交流人口の拡大もあります。2体の国宝「土偶」をはじめとする茅野市の縄文文化をより多くの人に発信していただけるよう、例えば市外在住者でも茅野市博物館学習会員であれば受検できるなどのように拡大することを検討しています。縄文教室や縄文ゼミナール等の受講者や尖石縄文考古館サークルの方も縄文文化への関心は高い方々ですので、受検できるよう課内で調整してまいります。</p>